

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2020. 11
No.327

企業の基礎疾患とは

「古い日本の経営」病

『コロナショックサバイバル』より一部引用

今のコロナ禍での問題点は「稼ぐ力」が落ちたことである。その根源には、1960年頃から30年間にわたり日本を奇跡的な長期的成功「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と称されるころまで押し上げた「日本的経営」。その社会システムが1990年頃、ちょうど昭和の終わり頃を境に耐用期限が過ぎたにも関わらず、さらに30年間にわたり引つ張り続けたことである。

日本の企業の根本病理は、圧倒的に日本人男性の終身年功サラリーマンで占められ、その同質性、固定性が現代の経営環境とあまりにもマッチしなくなったことにある。そしてある種の封建的な身分制を前提にした高い均質性、

固定性、排他性、組織的連続性を持った企業体という意味では、同じような基礎疾患を抱えるリスクを持っている。

また、変わらない、変わらない古い体質の中堅企業が変わっていくには、やはり外の血を入れ、新陳代謝を高める経営スタイルに転換していくトランスフォーメーションが必要なのだ。

トヨタ自動車さんが舵を切った

「トヨタ、一律定昇を廃止」という記事が10月8日の日経新聞に載りました。これは個人の評価により昇給額を決める制度を2021年から導入し、成果主義にさらに舵を切ることを意味しています。

豊田章男社長は、「皆さんが仕事のやり方を変えることが出来なければトヨタは終焉（しゅえん）を迎えると思う」と発言されています。

「頑張り続けている人の賃金は下がらず、現制度の水準を維持する」新制度の職能給は「実行力」と「人間力」という2つの要素を総合的に評価して決めると明言されており、トヨタによる実行力とは「専門性を発揮し、仕事を前に進め、人を育てる力」、対して人間力とは「周囲に好影響を与え頼られ信頼される力」だということです。

我イナテックも少なからずとも成果主義に向けて動いていくことによつて「古い日本の経営」の改革に取り組まない限り、アフターコロナで生き残ることは出来ないと考えております。

自分の頭で考えるI

『コロナショックサバイバル』より引用

“危機の経営においてはこれから起きうることに對する想像力、対応策の効果に對する想像力が極めて重要になる。なぜなら危機は、新しい形で想定外のところから突然やつて来るから。なにかのイベントに對してあらかじめ用意してあったマニュアルで対応できる場合は危機的状况を生まないのである。十分な情報と検証データに基づいた判断ができない状態が本当の危機なのだ。”

つまりイナテックにとつても最悪を想定し素早く“仮説”を立て検証することです。この誰も経験したことのないコロナ禍ではそれしかないのです。だから自分の頭で考え自分の頭で情報を集め即、決断するしかないのです。

自分の頭で考えるⅡ

『すべてを疑え』心と体の整え方』和田秀樹著より

引用

『資本論』を著したカールマルクスは、「すべてを疑え」と答えました。マルクスの言う「疑え」とは「常に自分の頭で考えろ」ということに他なりません。

日々生起する事象をマスコミはニュースとして取り上げて論評し、テレビのワイドショーではコメンテーターがもつともらしい意見を述べています。そして大部分の読者や視聴者、つまり大衆がそれを鵜呑みにすることにより、世間の常識らしきもの、社会の空気のようなものが醸成されていきます。

けれども、あらゆる事象は立体的であり、正面から見ただけでなく斜めから見たり、裏側にまわって見たりしなければ、その輪郭の総体を正確に捉えることはできません。また、ある判断を下す際には、常にエビデンスをチェックするという姿勢がとりわけ重要です。

「水は低きに流れ、人は易きに流れる」と申します。わかりやすく受け入れやすい言説は、脳に負荷がかからず楽です。しかし、そうした言説に接する時には、眉に唾をつけながら読んだり聞いたりするのが精神の正しい構え方だと考えています。「ホンマかいな」とワンクッションおいて、『自分の頭で考えてみる』ということです。

特にネットで流通する情報は、頭から疑ってかかるのが正しい作法です。そして匿名によるデマが日常的に拡散しているので注意が必要です。テレビにしてもスポンサーや政府に付度して嘘ではないものの偏ったニュースを垂れ流します。

イナテックの社員の方々も気を付けてください。今や匿名で人を非難したり、ある会社の悪口を言ったり、友人の悪口などにより自殺に追い込まれた事件も多く発生しております。そんなひきような事は後から必ず天の罪が下ると思っております。もつと明るい社会にするためにもネット情報には、無責任な同調をしないことがいちばんだと思います。この世に犠牲者を出さないためにも正しい気持ちのいい情報発信をしていきましょう。

八九

舍己、母處其疑。處其疑、即所舍之志、多愧矣。施人、母責其報。責其報、併所舍之心、俱非矣。

身を捨てて献身的になったなら、必ずためらってはならない。それにためらっては、せっかく、身を捨てた初志をも恥ずかしめることが多くなる。また、恩を施したら、決してその報いを求めてはならない。その報いを求めては、せっかく、恩を施した初心をも共にむだにする。